



惠泉

題字・河井道
2019年度 第3号
2019年10月23日発行

今年四月、惠泉女学園大学特任教授の谷口稔先生の御本「新渡戸稲造 人格論と社会観」が出版されました。谷口先生は大学院の修士時代に論文内村鑑三の思想的特質」を書かれています。卒業後、惠泉女学園中高で長く教員として勤められたのち、再び大学院博士課程に入られ研究を重ねて今回の新渡戸稲造研究を博士論文として発表出版されたのです。河井道先生のまさに「教師」であり最大の「後援者」であった新渡戸稲造先生を描いた論文として非常に優れたものであり示唆に富んだ著書であると思います。

河井先生は新渡戸先生のまさに愛弟子でした。新渡戸先生は河井先生が女学生であったころからの素晴らしい教師であり、アメリカ留学を父親のように勧め支援し実現させました。そして、教育者河井道先生を育て上げるのです。惠泉女学園ができて四年後には新渡戸先生は死去されます。惠泉女学園の誕生は新渡戸稲造先生抜きにはなかったと思います。

惠泉女学園は河井道先生が祈りを込めて作り上げた学園です。新渡戸先生は河井先生に学校を始めるのはまだ早いと言ってブレーキをかけた人、という風にとらえられがちです。しかし、世界大恐慌という大逆風の中に船出を決意した河井先生を陰で助け、資金がほとんど無くあま

りに無鉄砲な船出に難色を示す東京都に対して「全責任を持つ」と明言し、引受書を出して役所を納得させたのは新渡戸先生でした。しかも経済的にも大きな助けをしたのです。当時は人口が大幅に増えていく時代でもあり、戦時の好景気が続き、その後惠泉女学園は順調に育ち大きくなっていきました。当時の日本の人口は約六千万人、現在はその二倍の一億二千万人、しかし今後は若い人を中心に大きく減少すると予想されています。

新渡戸稲造先生

理事長 宗雪 雅幸

年後に新渡戸先生はカナダで亡くなります。日本が軍備を大幅に増強して中国や東南アジアに覇権を広げるべく狂奔している時代でした。アメリカをも敵に回していました。新渡戸先生は古くからの親しい友人、知人、有力者の多いアメリカに渡り、重要な人物に会い、各地で講演会を開いて、日本との友好、平和を説き続けました。そして力

尽きカナダのパンフで亡くなります。臍臓壊死でした。最期を看取った病院長は「このような病苦に耐えながら何ら苦痛を訴

えることなく口元に微笑を含んでいた方を見たことがない」と感嘆したそうです。一九三三年、昭和八年一月月でした。その八年後に日本はアメリカに宣戦布告し、あの悲惨な多くの犠牲者を出した戦争を始めたのです。

新渡戸先生は熱心なクエーカー教徒でした。キリスト教でも最も質素、瞑想を重んじ、内なる光を重視し、平和、平等、質素な生活の信仰生活を重んじていました。それでいてとてもユーモラスな方でした。新渡戸先生が日本で初めての農学博士

先日、大学に入学した新入生たちに社会人生活、実社会で生きる心構えについて話をする機会がありました。その中の何人かから、「惠泉がいわゆる有名校、エリート校でないことにどうしても劣等感、引け目を持つ、どうしたらいいのでしょうか」という質問がありました。私は、「実

社会に出たらエリート校かどうかなど全く関係がない、その人の力、人柄、努力次第ですよ」と言いました。あえて付け加えるなら「惠泉というのは河井道と新渡戸稲造の二人が作った学校です。学校で学ぶ学科をしっかりとやっただけに、聖書国際、園芸などを学んで人間として真に立派な仕事ができるようにという創立者の教えを学んでいます。」と誇りをもつて述べたらどうかと答えました。こんな素晴らしい創立者はそうはいませんから。

旧約聖書「コヘレトの言葉」に「すべてに耳を傾けて得た結論。神を畏れ、その戒めを守れ。」これこそ、人間のすべて。(第二章)とあります。これはこのお二人の胸の中にずっと鳴り続けていた御言葉であったであろうと思います。

惠泉女学園は河井道先生によって創立され着実に発展し九〇年になります。新渡戸先生は河井先生を創立時に陰から支え、よき教育が行われるようにと支えてくださった方です。

多磨霊園の正面入り口を入っですぐの所に新渡戸先生ご夫妻と生後八日で亡くなったただ一人のお子さん遠益(トーマス)君のお墓があります。折々に花が供えられているのを見ます。入口の霊園事務所でお墓の場所を確かめることができます。私たちが折に触れて訪れたい所です。